

2022 年度関西選手権

『レースに当たっての審判上の注意』

本大会は、①競漕規則をはじめとする日本ボート協会の規定 ②大会要項 ③審判上の注意(本稿)に則ってレースを運営する。①と②③間で矛盾もしくは不一致が生じた場合は、②③の条項が優先して適用されるものとする。

1. 健康について

選手は競漕に耐えうる健康者であること。また、自己の責任において体調を万全に整えてレースに臨み、気分がすぐれないときは、レース前・レース後を問わず、最寄りの審判員及び役員に申し出ること。給水にも気を配り、熱中症などにならないように注意すること。

2. レース中断について

大会は安全を何よりも優先して運営する。大会中、天候の急変によりクルーの安全が確保できない状況や危険が生じた場合、もしくはそれが予想された場合、大会や続行中のレースを中断することがある。レーススケジュールの急変に対応できるように、代表者の携帯番号を大会本部に提供する等、連絡がとれるようにしておくこと。

3. 航行ルールについて

本大会の航行ルールを別紙に示す。違反した場合はペナルティの対象となるので出艇前に十分確認すること。

4. 水上での安全確保について

水上における自らの安全を確保する技量を有していること（競漕規則第 22 条参照）。また、必要に応じ、救命具を携行・装着するなどの安全対策を各クルーの責任において実施すること。

5. バウナンバーについて

出艇前にあらかじめ定められたレーンを確認し、正しい番号のバウナンバー※を装着すること。バウナンバーの未装着はレッドカードを受けることがある。なお、ガンネルへの装着は認めない。

※・材質…プラスチック、または木製

・寸法…縦25cm 横15cm 厚さ2mm

・地色…白色

・文字色…黒色

・文字サイズ…縦20.5cm 横11.5cm 太さ3cm

6. 監視について

本大会では出艇および帰艇ポンツーンでの監視は行わない。

7. 発艇定刻について

出漕クルーは発艇定刻2分前までに所定の発艇位置(ステイクボート)に着かなければならない。遅れたクルーにはイエローカードが与えられることがある。

艇の故障等で発艇定刻に遅れる場合は、速やかに最寄りの審判員に申し出ること。事情を考慮の上、最大15分程度発艇定刻を繰り下げる場合がある。

許可無く発艇位置に着くことを遅延した場合、そのクルーを待つことなく発艇する。この場合、発艇員は到着していないクルーを「DNS(放棄)」とし、以後の競漕への参加を認

めない。また、決勝あるいは順位決定戦の場合には着順を認めない。

8. スタート時のコースへの進入について

前レースがスタート後、コースへ進入できる状況になると、発艇員がクルー名を読み上げレーンを指定する。バウナンバーと異なるレーンが指定される可能性もあるので、発艇員に指名されるまではコースに進入してはならない。

9. 発艇号令について

降雨等で発艇号令が聞こえない場合がある。クルーは旗の動きを見てスタートすること。なお、発艇猶予を求める挙手は原則認められない。各クルーは発艇定刻2分前までに準備を完了し、ロールコールの後はいつでも発艇できるように準備すること。

荒天等の理由でクイックスタートが行われることがある。本年4月より以下の号令となっているので注意すること。

【クイックスタートの手順】

発艇員からあらかじめクイックスタートであることが伝えられ、ロールコールに代え、「オールクルーズ」と発せられ、以降は通常の手順に従って行われる。

10. レース中の主審の指示

レース中に他艇に接触、あるいは他艇の進路を妨害するおそれがあるクルーに対して、主審は口頭と白旗によって注意を与えることがある。注意は、イエローカードの前段階の警告である。

状況により、競漕から遅れたクルーを主審艇が追い抜くことがある。その際、主審艇に抜かれたクルーは波を受けることとなるが容赦して欲しい。

なお、接触の場合で、双方ともに相手レーンを侵害した場合にはペナルティを与えない。

11. レース中における注意点

本コースは、1,600m付近の艇庫側で船台がコース側に張り出し、6レーンとの間隔が狭くなっている。

5レーン6レーンを使用して競漕する艇は十分に注意すること。

1,700mから2,000mにかけては艇庫側の水域が大きく広がってコースと岸が平行でなくなるため、自

己のレーンを見失うケースが多く見られる。自己のレーンをしっかりと確認し漕行するよう努めること。

12. 沈・転覆について

全種目において、沈・転覆が発生した場合、選手が自力で復帰し決勝線を通過した場合は着順を認める。ただし、主審が危険、もしくはレース運営に支障があると判断した場合は救助する(扱いは「DNF(途中棄権)」)。なお、落水時にストレッチャーから足が抜けなくなるがあるので、ヒールロープは必ず結び、すばやく靴を脱ぐことのできる長さに調整す

ること。

ヒールロープを結んでいない靴、もしくは緊急時に漕手が艇から速やかに離脱できる装備を備えたストレッチャーでない場合はレースに出漕できない。

13. 選手の落水について

漕手が故意ではなく落水し、そのままクルーがフィニッシュラインに到達した場合、着順は認める。ただし、舵手を欠いて決勝線(フィニッシュライン)に到達した場合は失格となる。

14. レース漕了後

決勝戦(フィニッシュライン)通過後は、白旗が上がるまでその場で待機すること。レースに異議がある場合、白旗が上がる前に申告しなければならない。レースに何らかの問題があり、赤旗が上がった場合は主審の指示に従うこと。

また、回漕時を含め、漁港へ近付いてはいけない。

15. 舵手計量について

今大会は競漕規則と同じ形式で行う。デッドウェイトについても、必要な場合主催者側が用意する。携行を命ぜられたクルーはレースに携行すること。

- ・計量は、大会本部3階(新艇庫3階)で行う。
- ・計量所での飲食は厳禁とする。
- ・計量時間に遅れると失格となる。
- ・デッドウェイトの最大重量は15kgとする
- ・デッドウェイトの携行を忘れて出漕した場合は、レッドカードが与えられ除外となる。
- ・舵手の性別は問わない。
- ・マスクを着用して計量所に臨むこと。
- ・計量時の服装はユニフォームのみとする(マスクは着用)

【ユニフォームとは】

競技者がレース中に着用するシャツとショーツ、あるいはそれらが一体になったローイングスーをユニフォームと呼ぶ。計量時は、例えば帽子、アンダーシャツ、アンダーレギンス、靴下などは着用できない。

16. 服装について

各クルーともロゴも含め統一したユニフォームを着用し、不揃いな服装で出漕してはいけない。

アンダーシャツ、アンダーレギンス等の着用は可能だが、着用するものは見た目の色調も含め、厳格に統一すること。

また、帽子・はちまき等を着用する場合には、着用する者の間で統一すること。

防寒のため、舵手のみが異装となることを認める。ただし、漕手と同じユニフォームを着用の上、防寒着を着用すること。

17. 予選でのレッドカードについて

予選において、放棄以外の理由でレッドカードを与えられたクルーは、正常な競漕速度で全距離を漕了した場合に限り次のラウンド(敗者復活戦)に出漕できる。

18. 決勝における除外の取り扱い

決勝レースにおける「DNS」(無届の場合を除く)・「DNF」は、決勝レースのみ行われる種目を除き、当該レース最下位となる。

19. イエローカード、レッドカード

クルーが違反・不正行為等を行った場合、指導や警告(注意・イエローカード・レッドカード)が与えられる。同一ラウンド内でイエローカードを2回与えられるとレッドカードの警告を受け除外となる。

イエローカードは、主審より白旗が上がった時点で解消される。しかし、レース終了後の回漕中などにイエローカードを宣告された場合、次のレースに持ち越しとなる。

20. 安全でスムーズな大会運営に関して

本大会の主旨は関西の覇者を目指す者の選手権である。

選手権である以上、2000mを他のレーンを侵害することなく、レース速度で漕了できるクルーを最低限の基準としてレースを運営する。

この基準を満たせず次レースの出漕時間に影響を与えたり、安全に漕行できず他クルーに迷惑をかけたクルーは出漕を遠慮いただきたい。

本条に抵触するクルーは、レース中にレッドカードを宣告される事がある。

21. 伴走について

いかなる場合も、コースに沿いクルーに自転車伴走することを厳禁とする。伴走を発見した場合は、関係クルーを失格にする。

22. 無線通信機器について

携帯電話・スマートフォン・Webカメラ・スマートウォッチ等、無線通信機器を艇内に持込むと失格となる。

23. コース閉鎖について

競漕開始30分前にコースを閉鎖する。コース閉鎖中は、レースに出漕するために回漕するクルー以外はコースに入れない。競漕前及び終了後に、コース閉鎖及び解除の放送をする。

24. 異議申し立て

レースに関する審判に対しての異議申立は、当該審判または審判長が裁決する。

これに不服のある場合、当該採決の1時間以内に、その所属団体の代表者もしくは代理人を通じて不服審査委員会に対して書面で申し立てをしなければならない。当該方式によらない異議申し立ては一切受け付けないので注意すること。

以 上

※競漕規則の全文は、日本ボート協会ホームページをご参照願います。

<https://www.jara.or.jp/jara/> ⇒

